

しめやかに社葬
900人が故人偲ぶ

大和合金相談役
故萩野茂雄氏

昨年12月24日に85歳で死去した大和合金(本社〓東京都板橋区)の萩野茂雄相談役の社葬が16日、東京・築地の築地本願寺で行われた〓写真。会社関係者と知人や親族を合わせ

て約900人が参列。社員幸せを第一に考え、顧客との信頼関係を大切に。最後まで仕事に情熱を注ぎ続けた故人を偲んだ。

1932年に東京で生まれた萩野氏は、55年に早稲田大学理工学部金属工学科を卒業して東邦亜鉛に就職。広島県の契島製錬所で勤務した。62年に家業の特殊銅合金メーカー、大和合金に入り、83年から2013年まで2代目社長を務めた。

研究室の後輩で同社の技術顧問も務める神尾彰彦東京工業大学名誉教授は弔辞の中で、利益の追求より社員の幸福や社会貢献に重きを置いた萩野氏の多くのエピソードを紹介。

母校の早大から金属材料系の学科がなくなった後はともに復活を目指して尽力し、苦節10年を経て昨年に大学院での専攻が認められたことに触れ、「入学者を迎えてお祝いの美酒を交わしたかった」と残念がった。

葬儀委員長を務めた次男の萩野源次郎社長は、「口こそ悪いが、関わる人を、社会を愛していた。カリスマ性に富むかけがえのない存在だった」と父の死を悼み、「もつと社会の役に立てるよう責任を果たしていきたい」と決意を語った。

